



その任を終えるにあたり

市長 澤村忠良

今月30日、市長としての任期が終了いたします。平成14年1月20日、旧旭市長に就任以来7年5か月余、勤めさせていただきました。大勢の方々に支えていただいて、楽しい充実した毎日でありました。

今顧みますと「新旭市を誕生させる」そのことが私の任務のすべてであった、そう思います。旧旭市長としての1期は、まさに合併にのみ明け暮れました。3町長さん、議員さん、市民代表の皆さんと協議を重ね調印式を迎えたときの感激は、今もはつきり覚えています。

3年余の時を要して新旭市が誕生し、平成17年7月31日、市長に就任いたしま

した。私の最初に心掛けたのは、市民との一体感の醸成ということであり、時間の許す限りさまざまな場所に出かけ、市民との会話をいたしました。おかげで温かい、溢れるほどのご協力を賜り、順調に市政運営を実行することができました。合併特例債、合併交付金など有利な財源を生かし、必要な事業を確実に進めることに力を注ぎました。小中学校・保育所の耐震化、道路・排水路整備、パークゴルフ場・公園の整備など。小中学校の耐震化率は89・04パーセント、排水路もすばらしく整備が進みました。こうした積極的な事業展開をしながら合併時と比べ市債は減り、基金は増加しております。

す。このことは職員の頑張りとの県の適切な指導によるものであり、感謝しております。

旭市が、その将来に大きな期待を持てる要因は医療の核である旭中央病院を擁していること、農・商・工、産業のバランスの良いこと、加えて市民の協力性、さらには、ちばてつや先生をはじめ大勢の先生方に外からの活発な応援を頂いていることでもあります。こうした大勢の方々のご指導・ご協力のもと、精一杯、思い通りの仕事をさせていただきました。ありがとうございます。市民の皆さんに心から感謝を申し上げ、お礼の言葉といたします。



▲耐震化が進む学校施設（第二中）



▲新市の誕生を祝う合併記念式典



▲子育てをサポート（つどいの広場）



▲中学生の提案を総合計画に反映



▲大勢の人がプレー（パークゴルフ場）

日本一住みよいまちを目指して

新旭市の初代市長として、誕生間もない新市のかじ取り役を担った伊藤市長が、7月30日をもってその職務にピリオドを打つこととなりました。ここに、主な業績を振り返ります。

平成17年

●旭市合併記念式典挙行

●市章・市の花「ツバキ」・市の木「クロマツ」制定

●長野県茅野市と姉妹都市、沖縄県中城村と友好交流市村締結

平成18年

●旭市要保護児童対策地域協議会設置

●谷丁場遊正線開通

●コミュニティバスが本格運行

●つどいの広場オープン

平成19年

●総合計画に基づくまちづくりスタート

●地域包括支援センター設置

●出合いコンシェルジュを委嘱

●海上中完成。干潟中・豊畑小・第一

中耐震化

平成20年

●あさひパークゴルフ場オープン

●旭市の文化と観光情報発信委員会設置

●新しい防災行政無線を整備

●第二中完成。干潟小・共和小・飯岡

小・鶴巻小・滝郷小・中央小南校舎

耐震化

平成21年

●旭中央病院新本館建設工事着工